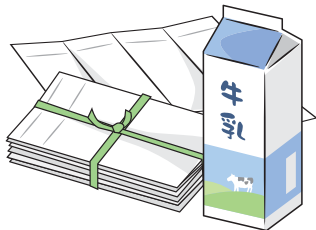


## 家庭で私たちにできること⑥

### 紙パックの場合



例えば、

1,000mlの紙パック

1パックのリサイクルで



サッカーボール



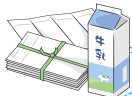
**約3個分のCO<sub>2</sub>を削減**

## 【ねらい】

ごみの焼却等により化石燃料が使用され、結果として二酸化炭素の排出や地球の気温上昇に繋がることを理解したうえで、3 R行動とそれによるCO<sub>2</sub>削減効果を示すことにより、自分たちの日常生活の中でのごみの削減や3 Rの実践行動に繋げていきます。

## 家庭で私たちにできること⑥

## 紙パックの場合



例えば、  
1,000mlの紙パック  
1パックのリサイクルで



サッカーボール  
約3個分のCO<sub>2</sub>を削減

※これを参考に、クラス生徒全員の家庭で取り組んだ場合、学校生徒全員の家庭で取り組んだ場合などを計算して、**少しの取り組みの積み重ねが温暖化防止に繋がることを実感してみよう！**

## 【関連する各教科の学習内容】

|           | 小3           | 小4           | 小5              | 小6       | 中1                                   | 中2 | 中3 |
|-----------|--------------|--------------|-----------------|----------|--------------------------------------|----|----|
| 社会        | ○地域の人口の増加や減少 | ○地域の人口の増加や減少 | ○公民館や地域の施設、生活環境 | ○世界の国の様子 | 【地理】<br>○世界と比べた日本の地域的特色(気候・工業・人口と産業) |    |    |
| 理科        |              |              |                 | ○生物と環境   |                                      |    |    |
| 技術・家庭(環境) |              |              |                 |          |                                      |    |    |
| 技術・家庭(家庭) |              |              |                 |          |                                      |    |    |

## 【資料解説】

ここでは、日常生活の中で行える3 R行動とそれによるCO<sub>2</sub>削減効果を考えます。右のデータは、紙パックのリサイクルについて、削減できるCO<sub>2</sub>の排出量をサッカーボールの個数に換算したものです。

環境省が作成した「3 R行動見える化ツール」を参考に計算すると、1,000ml入りの紙パック(重量30.04g)1パックを回収・リサイクルした場合、廃棄焼却される場合と比べて0.027kgのCO<sub>2</sub>を削減することができます。

※回収した紙パックは古紙パルプとして再生されるものとし、その分だけ、紙(クラフトパルプ)が削減できるものとして計算(詳細は、環境省「3 R行動見える化ツール」を参照してください。)

これをサッカーボールの個数に換算すると、約3個分になります。(環境省の「めざせ！1人、1日、1kgCO<sub>2</sub>削減」では、1kgのCO<sub>2</sub>量はサッカーボールの場合、約100個分の体積に相当するとしています。)

参考：環境省「3 R行動見える化ツール」

## 【参考1】紙パックのリサイクルでたくさんの木が救われる

【資料解説】にあるように、紙パックのリサイクルにより、CO<sub>2</sub>の排出削減が図られています。また、紙は木から作られるため、紙パックのリサイクルによりたくさんの木が守られることにもなります。

木は、地球温暖化の主な原因である二酸化炭素を大気中から吸収し、蓄える役割を担っていることから、その点でも、地球温暖化防止に役立つこととなります。

日常的に根付いている「紙パックのリサイクル」ですが、地球温暖化に対してどのような意味を持っているのかを押さえ、取り組んでいるリサイクル活動の価値を改めて理解することが必要です。

## 【参考2】牛乳びんはリターナブルびんの代表格

学校給食で長く親しまれている牛乳びんは、繰り返し再利用(リユース)ができるリターナブルびんの代表格です。ひと昔前は「重い」というイメージがありましたが、現在は、軽量化が進むことにより、びんに使う原料が少なくて済み、またびんを作ったり運んだりするのに必要なエネルギーも節約され、地球温暖化の防止にも繋がっています。